
僕の生意気なぬいぐるみ。

Unknown

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の生意気なぬいぐるみ。

【Nコード】

N1749Y

【作者名】

Unknown

【あらすじ】

俳優の元基はある時、ゲームセンターで一体の犬のぬいぐるみと出会う。しかし、それは普通のぬいぐるみではなく五代將軍徳川綱吉が憑依していた!?

ぬいぐるみと主人公と仲間達のほのぼのストーリー

エブリスタにも連載してます。

人物紹介

主要

星野元基 ほしの げんき

25歳。身長183cmの若手俳優。

ちよい人見知りで初対面の人間の前ではあまり笑わない。だが、心を許した相手の前ではよく笑い、根はいい子。

朝に弱く、寝起きは周りにトラウマを植え付ける。自分では自覚していないが、たまに黒くなる。
めんどくさがり屋。

いぬのぬいぐるみ

徳川綱吉 とくがわ つなよし

年齢不詳。抱きしめるとちょうどいい大きさ。

怒りっぽい&偉そうというか当時は一番偉かった。少し、いやかなり我が儘である。

クレインゲームで元基と出会う。

五代将軍でぬいぐるみに憑依している。今はぬいぐるみだが、他の物にも入れる。(ただし、生者には入れない。)

斯波雅樹 しば まつみ

31歳。身長180cm。

皆のしつかり者のお兄さん、というかオカン。少し怒りっぽい。

31歳なのに見た目20代前半のとてもカッコイイお兄さん。

見た目のせいか毎回年齢を勘違いされ、よく女子高生などに逆ナンされる。ちなみに独身。

人物紹介（後書き）

初めましてunknownです！

小説初心者の私たちの作品をみてくれてありがとうございます！

この小説は私の友人の描いた漫画を小説にしたものです。

まだまだうまく書けない作者ですが、できたらこの作品についての評価とアドバイスを頂きたいです。

これからも「僕の生意気なぬいぐるみ。」をよろしくお願いします
！！

出会い1(前書き)

書き終わりました！

出会い1

「あいつ」との出会いは突然訪れた。

in ゲームセンター

僕が友達とゲーセンに居た時だ。

「~~~~~だったらしいよ！」

「マジかよ(笑)」

「ありえないよな。」

いつものように皆で話しながらぶらぶらしていると、僕の視界にある物が映る。

「ん？」

なぜだかわからないが妙に目が離せなくなってしまった。

「どうした、元基？・・・UFOキャッチャー？」

「・・・いや、ちょっと・・・」

「で？それで金使い果して、ここに来た目的であるみっちゃんの誕生日を買えないと？」

「・・・はい。」

「んー？何となく？（笑）」

この言葉に嘘はない。．．．．なぜだかわからないが、妙にこのぬいぐるみが欲しくなったんだ。

これかわいいなーと犬のぬいぐるみを見つめながら僕が言うと、

「イダダダダダダダ！？」

雅樹さんが急に僕の首を絞めてきた。痛いっ、めちゃくちゃ首が痛いし苦しいです！！！！

「．．．ごめん、俺が馬鹿だったんだな。」

もつと厳しくしなきゃな、と雅樹さんは言って手に力を入れた。

やばいつ！！雅樹さんの目が本気だ、早く謝らないと！！！！

「ず、ずびばぜん」でじた．．．．．」

「わー？元チャンが首絞められてるー？」 「笑ってないで止めるよっ！！！！」

慌てて友達が止めに入ろうとする。あっ、やばい。なんか意識が．．．．．

結局、友達からの説得と僕が誠心誠意雅樹さんに対して謝る事だなんとかその場を収めることが出来た。

出会い1 (後書き)

Unknownです

やっと書けたと思ったらまだ1話終わってませんでした・・・orz
次の回では人物紹介に出てきたあの人が登場します！
まだまだ未熟者ですが、よろしくお願いします

出会い2(前書き)

1・2週間遅れの投稿です。

・・・だれも読んでくれてないという現実orz

出会い2

in Genki's house

色々あったがやっと家に帰ってこれた。今はもう夜中になってしまっているし、本当に今日はたいへんだっただな……。

「はぁー……、お前のせいで雅樹さんに怒られちゃったじゃんかー。全く、15600円も使ったんだから何か幸運でも運んでくれよ?」

僕は思わず犬のぬいぐるみに対し、そう呟いてしまった。それにしても跡が付いてないにしろ、いまだに首が痛い。……。雅樹さん、一体どれだけの力を込めたんだ? (汗)

明日はフリーだけどそろそろ僕も

「……………寝るか」

そう思い、寝室に向かおうとした。

おい! 貴様!

……………!?

僕は慌てて後ろを向く。だが誰もいない……………あるのは今日取ってきたぬいぐるみだけだ。

「……………幻聴か?……………ないと思うけど、もしかしてお前か

「？」

そう言いながらぬいぐるみの耳をひっぱる。

その手をどけぬか！無礼者っ

余を誰だと思つておる！

ん……………？え！？

な、なんじゃ貴様……………！！じろじろ見るでない！

そう言つて若干照れたように怒っているぬいぐるみ。

「……………ア、アハハ……………」

……………嘘だろ……………！？

え、いや何コレ。夢？

な、何じゃ！？

えーいやいや何コレ？ドッキリ？違うよな。ありえねーよな。どう考えても。本当に？こいつ喋ってる？喋るぬいぐるみつか？あるよなそういうやつ、多分。ってか、この喋り方は何なんだよ。殿様の的な？えー

ぬいぐるみに顔を近づけ、じつと見る。

ち、近いぞ！？馬鹿者っ

.....。

僕はぬいぐるみをだまって床に置いた後、それから背を向け体育座りをする。

ど、どうしたのじゃ！？大丈夫か・・・！？

「もう、分かんねえよ.....」

そして思わずそのまましばらく現実逃避をした。

出会い2（後書き）

今回この小説をE エプリスタの方にも出すことにしました

お願いです

誰か読んでください

そしてほんの少しでいいのでアドバイスください> | | | <

出会い3 (前書き)

前回初めて感想を頂きました!!!
作者の私は感激のあまり泣きそうです

出会い3

1時間後

~~~~~。

「うん。」

そういっことじゃ。

僕はどうにかぬいぐるみと会話できるようになっていた。

「はあ . . . 。ところで、犬さんは

何じゃ

「誰ですか?」

そう。これは、僕が落ち着いてから真っ先に気になったこと。

犬さんとは今日会ったばかりだし、なかなかタイミングが悪くて聞けずにいたのだが . . .

先程も申したであろう!?

「え . . . .」

余は . . . . .

徳川幕府五代将軍、徳川綱吉じゃっ!

ババーン

効果音が聞こえてきそうな言い方、それでいて無駄にキリッとした表情をしながらぬいぐるみは名乗ってきた。

．．．ん？

今、徳川綱吉って言った？それも、五代將軍の??

「．．．．．それ、今僕がやってる役なんだけど」

徳川綱吉役。そう言ったら、

はあ？

訳が分からないというような表情をされた。

「だから、今貴方の役でバラエティ番組やってるんですよ。ほら、これ」

昨日、放送されたやつ。そう言いながら僕はテレビの電源を入れ、撮っておいた物をつけた。

な．．．!？箱の中に人が．．．

「テレビって言うんです。」

て、てれび．．．???

「五代將軍．．．綱吉です。」  
．．．。

テレビの中の僕が喋ったのを聞いて綱吉は一瞬黙った後、

ふざけんなしお前、マジで。何、許可もとらずにやってんの？似てねえしよー。

怒った。ん．．．!?

「何その、いきなり現代人っ!??殿様のしゃべりどうした、オイ。」

余も、この姿で5年は経つからのー。今時の言葉ぐらい喋れるわてればは知らなかったが。と綱吉はドヤ顔で言ってきた。

というわけで元基ッ!今日から、ここに住まわせてもらっぞ。「はい」か「喜んで」の2択じゃ!」

この傲慢さ、まさに綱吉クオリティ．．．て、ん???

「え、ええええ!?!??何言ってるのアンタ!?しかも「はい」か「喜んで」って、結局変わんないし!?!」

思わず驚きのあまり立ちあがっちゃったじゃないか!!

余だから仕方ないのじゃ、いさぎよくあきらめい。

「しかも、何で俺の名前知ってるの!?!」

余を誰だと思ってる

「意味わかんねえ!」

「．．．はあ、何かもついいや。どうにでもなれ、俺。」  
ふむ、良き判断じゃ

こうして、僕とこの生意気なぬいぐるみのちぐはぐな生活が始まった。

第1部 完

おまけ

まずは、腹が空いたのう。元基、飯でも作れ。

「もう12時だぞ！？無理、というか嫌っ！！ペットフードで食ってろっ！！！」

そんなもの食えるかッ！！！！

「じゃあ、我が儘言っとなっ！！！」

こんなんで、この先大丈夫か・・・？

### 出会い3 (後書き)

元基「やっと1話完結ですね。」

綱吉 長かったの

作者「本当に大変でした・・・(遠い目)」

元基「そういえば、僕の一人称何で僕と俺の両方を使ってるんですか？」

作者「実は、元基は興奮や怒ったりすると自分の事を俺って無意識に言っちゃうんですよ？作者の私は日常でころころ一人称や喋り方を変えてますが。」

元基「へえー、そうだったんですか。」

綱吉 それにしても、余の出番が少ないとはどういうことじゃ！元基ばかりで余の出番が1ではほとんどないではないか！

作者「・・・・・・・・・・・・・・・・」

綱吉 余を無視するでない!!!

元基「まあまあ、次は出番も増えるよ(たぶんね)。」

作者「ここまで読んで下さりありがとうございます！感想など何でも受け付けます。」

「「未熟で駄目な作者ですが、これからもよろしくお願いしま  
す。」」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1749y/>

---

僕の生意気なぬいぐるみ。

2011年11月18日06時46分発行